

手をつなごう 地域連携のベスト

日 時	2026年9月12日(土) 10:30 ~ 12:00
会 場	第3会場 (2F メインホールB)
座 長	酒井 昭典 (産業医科大学整形外科学教室)、山崎 薫 (磐田市立総合病院)
単 位	日本骨粗鬆症学会：マネージャー教育研修単位

2-SY22-1

かかりつけ薬剤師の視点からみた地域の骨粗鬆症診療の現況（介護保険サービス、在宅医療をふまえて）

宮原 富士子（NPO法人HealthyAgingProjectsForWomen／ケイ薬局）

骨粗鬆症マネジメントには「急性期医療モデル」ではなく「継続的なフォローアップと多職種連携によるマネジメントモデル」が求められる。退院時から在宅療養・その後のフォローまでシームレスに支える連携と、かかりつけ薬剤師制度による長期的支援の実践力を紹介する。

2-SY22-2

都立病院機構の病病連携 – 施設の立ち上げからネットワーク化まで –

栗田 慎也（東京都立病院機構 東京都立大久保病院リハビリテーション科）

都立荏原病院でのFLS立ち上げで再骨折率低下・退院後外来受診増を達成し、OLS活動奨励賞やIOF認定を取得。異動先の大久保病院でも早期に運営を開始し、法人本部公認の連絡・共有スペース発足へ。誰が担当しても運用できる仕組み化と標準化の要点を語る。

2-SY22-3

FLSにおける地域連携の最前線 ～西宮市における開業医連携の実際～

瀧川 直秀ほか（西宮協立脳神経外科病院 整形外科 ほか）

2015年よりFLS/OLSを開始し10年以上が経過。西宮市では地域連携パスを経由した回復期からの開業医連携に加え、自宅退院後に急性期から直接開業医へ紹介する体制を整備した。ICTを活用した情報共有と、ガイドライン2025のAnabolic First導入時期の課題を報告する。

2-SY22-4

呉市における骨粗鬆症診療の多面的アプローチ – 呉市骨粗鬆症重症化予防プロジェクト –

寺元 秀文ほか（呉市地域保健対策協議会 骨粗鬆症地域包括医療体制検討小委員会 ほか）

医科歯科連携によるMRONJ予防ネットワークとパノラマX線を活用したスクリーニング体制を整備し、市民をリスクに応じ三層化して介入。レセプト解析では2017年以降、女性で大腿骨近位部骨折・椎体骨折発生率の有意な低下傾向を認めた。

2-SY22-5

新潟の多面的骨粗鬆症連携 – 骨粗鬆症サポーター研修会NP、OLS CoCoNプロジェクト、骨粗鬆症地域連携マップ –

堀米 洋二（新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座）

①医療系国家資格を持たない事務員・自治体職員も対象とするサポーター研修会（受講者2000人超）、②クラウドファンディング882万円を原資に3年間で31名のマネージャーを輩出したOLS CoCoN、③Googleマップによる地域連携マップ。多面的な連携構築こそが「近道」と説く。